

地域毎の話し合いについて報告

- 三鷹市 平成16年5月24日(月) 午後2時～午後4時
 平成16年6月28日(月) 午後2時～午後4時
 平成16年7月30日(金) 午後2時～午後4時 予定
 場所：三鷹市役所(参加者：協議員のみ)
- 杉並区 平成16年5月28日(金) 午後6時～午後8時30分
 平成16年5月31日(月) 午後6時～午後8時30分
 場所：杉並区 西荻地域区民センター集会室
 (参加者：協議員、地域の団体代表)
- 武蔵野市 平成16年7月1日(木) 午後7時～午後9時
 場所：武蔵野商工会館(参加者：来場者全員)
- 世田谷区 平成16年7月3日(土) 午後2時～午後3時
 午後4時～午後5時
 オープンハウス(午後1時～午後5時)と同時に開催
 場所：喜多見東地区会館(参加者：区が公募して選考)
- 練馬区 平成16年7月30日(金) 午後6時30分～午後8時30分
 場所：練馬区役所多目的ホール(参加者：協議員) 予定
- 狛江市 平成16年8月7日(土) 午後2時～3時30分 予定
 オープンハウス(8月6日(金)、7日(土) 午後1時～5時)
 場所：狛江市谷戸橋地区センター(参加者：来場者全員)

その他区市 調整中

PI 外環沿線協議会・地域毎の話合い結果（第 2 回）

- 1 開催日時 平成 16 年 6 月 28 日（月）午後 2 時
- 2 開催場所 三鷹市役所 第 3 委員会室
- 3 出席者（PI 協議員）

国土交通省	川瀧弘之（関東地方整備局道路企画官）
	山本悟司（東京外かく環状道路調査事務所長）
東京都	道家孝行（都市整備局外かく環状道路担当部長）
	宮良 眞（同 担当課長）
三鷹市	新 守一
	富沢和也
	樋上 寛
	藤川雅志（都市整備部調整担当部長）
- 4 議 題
 - (1) 第 1 回の結果の確認
 - (2) 三鷹の外環道が抱える課題について（環境問題・周辺道路問題）
 - (3) 協議員の意見及び自由討議 ～三鷹市の抱える問題について～
- 5 主な内容
 - (1) 地域への影響
 - 地下水への影響について
 - インターチェンジとジャンクションについて
 - 玉川上水への影響について
 - 立ち退き問題について
 - 換気所について
 - (2) 道路構造について
 - 周辺街路と生活道路について
 - 交通量と方向など交通シミュレーションについて
 - 南北道路問題について
 - (3) 高速道路の料金問題について
 - (4) 近隣市区との話合いの必要性について
 - (5) 外環計画の進め方のあり方について
 - (6) 次回の進め方について(インターチェンジ、ジャンクションの構造の考え方)
- 6 次回の予定
7 月 30 日（金）午後 2 時より

「P I 外環沿線協議会・武蔵野市懇談会」の概要について

1. 開催日時 平成16年7月1日(木)午後7時～9時30分
2. 開催場所 武蔵野商工会議所4階市民会議室
3. 出席協議員 川瀧協議員(国)・山本協議員(国)・道家協議員(都)
宮良協議員(都)・村田協議員(市民)・濱本協議員(市民)
塩沢協議員(市)
4. 出席者 48名 {市内38名(市議11名)・市外10名}
5. 次第 外環の経緯等について(説明・国)
協議員から挨拶とコメント
意見交換(質疑応答)
6. その他 アンケート回収数28通
事前周知方法 市報,ホームページ
7. 来場者の主な意見

[P I 外環沿線協議会]

- ・ P I 協議会は計画ありきで議論が進められているが、今後のモデルとなるわけだからこのようなことでは遺憾に感じる
- ・ P I 協議会の位置付けと協議会をどのように重視しているのか。議論の尊重を
- ・ P I 協議会で必要性の議論をしている中で方針を発表したり、環境調査をはじめたのはP I 協議会の存在を軽視した考えでは
- ・ P I 協議会の協議員は大変であると思うができるだけ今までの蓄積があるので同じ人に続けて欲しい
- ・ P I 協議会は、現在十分なデータが出ていないということなので、きちんとデータを出して議論し、改めて最終とりまとめが出る段階まで継続していただきたい
- ・ 必要性の議論をしているP I 協議会があるのだから、計画を変えてなくしたというプロジェクトXを目指していただきたい

[外環本線]

- ・ パリでは環状道路ができて渋滞等は解消されていないと聞くが、これらの状況を踏まえきちっと調査を

- ・大深度地下と憲法第29条の整合性や地上部道路については、地域のメリットを考えて欲しい
- ・外環をつくらない場合のシミュレーションをして欲しい
- ・15年3月公表の方針はどのような取り扱いになっているのか。PI協議会での議論はどのように生かされるのか
- ・環状道路といいながら東名以南の計画がはっきりしないのでは、外環は欠陥道路ではないか
- ・外環の必要性は地球環境を考えもうちょっとグローバルな大きな目で見ていく必要があるのでは
- ・41年の当時のルートと、大深度のルートが同じというのは納得がいかない。大深度としてベストのルートを原点に戻って考え直すのが当然では

[地上部街路]

- ・外環を大深度でやるなら地上部街路はいらない。
- ・地上部の道路をつくるということは道路を2つつくることになり地域が分断される。福祉のまちづくりといっているときにどういうことなのか
- ・大深度なら武蔵野市内は影響がないと思っていたが、街路の計画が都からはっきりでているのはだまされたような変な気持ちだ
- ・計画変更は高速道路部分のみで、地上部の街路が残るということは誰が判断して法律でそういう決まりがあるのか
- ・地域分断や公害の発生で反対だったが、大深度の方針が出て反対の効果があったというが、地上部の計画が残っているので過去形に言って欲しくない

[その他]

- ・市民は納税者として公共性意識をもってまちづくりにきちっとした意見をもって参加し、議論していく必要があるのでは
- ・今の段階で大量の資料は出ているが必要性の有無を判断できる資料や有効な資料が出ていない

平成16年7月22日
協議員 栗下 孝

PI外環沿線協議会「地域PI（地域の話し合い）～世田谷～」の
開催結果について

- 1 開催日時 平成16年7月3日（土）
第1回目 午後2時～午後3時
第2回目 午後4時～午後5時
- 2 開催場所 喜多見東地区会館 第2会議室
- 3 出席協議員
（世田谷区在住） 秋山 光男、栗林 勝彦、江崎 美枝子
（国土交通省） 川瀧 弘之、山本 悟司
（東京都） 道家 孝行、宮良 眞
（世田谷区） 栗下 孝
- 4 参加者
区のおしらせに掲載した公募案内に応募いただいた方 19名（欠席2名）
- 5 次第
 - ・ PI協議員紹介
 - ・ 外環概要説明
 - ・ 意見発表
 - ・ 意見交換
 - ・ まとめ
- 6 参加者からの意見
別紙、「地域PI（地域の話し合い）～世田谷区～（平成16年7月3日（土）開催）参加者から出された意見の概要メモ」のとおり

【必要性】

- ・ 外環は交通渋滞緩和のために必要だと思う。造るのであればどのような方法があるか皆で話し合って満足するものを作っていかなければならない。
- ・ 外環が出来ないとこのまわりの運転の車が都内にどれほどの排気ガスを出しているか先に考えて欲しい。設備を整えれば、地下トンネル内や地上部をドーム式として、道路の空気をきれいにすることが出来る。自動車を足かせにするより、出来るだけ排気ガスを撒かないでスムーズに通過するよう考えて欲しい。
- ・ 今の段階で外環を造らないのは難しいが、多摩川で東名と接続する多摩川ルート案が考えられるのではないかと。国分寺崖線・野川への影響、移転戸数の減、東名以南の問題等、利点があるので色々な案を検討していただきたい。
- ・ 外環は非常に大切なものだから国として作るのには否定しないが、東京の宝、世田谷の緑の生命線である国分寺崖線、野川の自然環境のところには例え地下といえども、外環をもってくる必要はないと考えている。
- ・ 外環の必要性に疑問がある。道路が出来れば必ず車がついてくる。練馬の渋滞・大気汚染の問題が世田谷に移るだけ。
- ・ 建設費が1m1億円という高い道路を今造る必要があるのか。次世代に多額の借金が残る。
- ・ 環8周辺の大気汚染は外環の整備ではなく直接減らす努力をすべき。外環建設に多大なお金を使うよりも、先ず環8等既存道路の大気汚染対策をやりながら、時間を稼ぎ、ゆっくりと十分な環境調査をやった上で外環について考えるべきである。
- ・ 外環の効果として環8・環7の渋滞解消、大気汚染改善は本当にそうなのか疑問である。渋滞するのは、鉄道も含めた南北の公共交通機関が少ないからだと思う。これからの東京をどういうふうにしたいのか、もっと時間を掛けて考えてほしい。
- ・ 区は環8、環7の大気汚染、渋滞の緩和のため外環は必要であるというが、本当にそうなるのか疑義を感じている。環8、環7の沿道にとっては外環は必要とも思うが、この地域に外環が出来るとそれ以上の影響が想定される。
- ・ 三環状も作る必要があるのか。都心に向かってくる車は、他の高速に移動するのではなく都心に用があるからだと思う。

【大気】

- ・ 現在も世田谷通りの騒音と粉塵に困っている。外環が出来た場合、料金所の騒音と排気ガス、粉塵が心配である。料金所の地下化も含め在り方の検討をして欲しい。
- ・ 地上部については、ドーム式などにして排気ガス、粉塵が撒き散らないようにして欲しい。
- ・ 道路の換気については、空気清浄機を通してきれいな空気を出すようにして欲しい。
- ・ インターチェンジについてもドーム的に混んでいる時だけ道路をおおい、空気清浄機で換気する等の方法も考えられる。
- ・ 外環が地上部に出てくる周辺は学校の多い地区である。子供たちを大気汚染から守りたい。
- ・ 脱硝装置を、ぜひ採用してほしい。
- ・ この地域は現在でも環8八幡山沿線や大泉とほぼ同じ大気汚染である。外環ができれば、現在よりもっと悪くなると考えられる。十分な対策が必要である。

【地下水】

- ・ シールド工法を用いた場合の地下水の遮断が心配である。
- ・ 外環のトンネルにより地下水の分断・遮断があると自然破壊に繋がりがかねないので、よく調査したうえでやる・やらないを考えてほしい。
- ・ 古老や井戸業者の話から、この地域は成城駅方面から地下水が流れて来る。国土交通省の説明と違う。成城台地の中、地下30m位の地下水の流れの方向を調べて欲しい。
- ・ 喜多見湧水群の保全を大前提に考えて欲しい。

【自然環境】

- ・ 外環道が地下を通るとみつ池への影響は大きい。みつ池の自然が住民、子供たちにとって大事なものであるという事を認識して調査を行って欲しい。
- ・ 工事中の震動により、蛸がいなくなってしまうか心配である。
- ・ 区は、国分寺崖線を守る条例を作るのに、一方で崖線をこわすような外環を促進するというのは、つじつまが合わない。
- ・ 外環を造った場合、周辺における環境破壊、景観破壊が大きな問題である。

【交通集中】

- ・ 外環ができた時に交通量がどのように変化するか、一番大きな問題だがはっきり分からないので、分かりやすい説明をしてほしい。

- ・ 環8等の渋滞緩和は道を作るのではなく、車を減らす努力を、効率優先の生活は見直すべきである。
- ・ エイトライナーが出来た場合の交通量のシミュレーションと大気汚染について資料を出して検討して欲しい。

【東名以南】

- ・ 環状道路というならば、東名以南の計画があるのが前提である。
- ・ 東名以南の南進問題について住民に理解してもらう方向づけをお願いしたい。
- ・ 外環が必要であるならば東名以南を考えてもらわないと、料金所や地形の問題でこの地域は大変な事になると危惧している。
- ・ 外環は、東名以南、第3京浜まで繋げないと、大泉周辺の二の舞になる事に危惧を感じている。確かな計画を示して欲しい。

【環境影響評価】

- ・ 環境アセスの評価は住民参加でやってほしい。
- ・ 事業化の判断する場合の評価にあたっては、地域住民代表を参加させてもらいたい。
- ・ 環境調査の十分な資料を区、区民にも出してほしい。
- ・ 今回のアセスは戦略的アセスであって、事業アセスでないことを確認したい。
- ・ 環境調査は議論のためのものではなく、事業アセスのようだ。議論のためのものならば、なぜP I協議会は終わろうとしているのか。調査を今後議論にどう生かすのか、明らかにしてほしい。

【まちづくり】

- ・ 喜多見はジャンクションに向かって必ず地上に出で来る所である。外環が出来ると私たちの町がどうなるのか説明して欲しい。
- ・ 地域の街づくりは国・都・区が一体となって考えてほしい。
- ・ 野川、慶元寺、次大夫堀公園等保護すべき自然が沢山ある。未来に残すのは道路ではなく自然である。
- ・ 喜多見の道は狭く曲がりくねっていて効率的ではないが、外部から車が入って来ない。車の譲り合いでコミュニケーションが取れる等こういう道も良い。外環が出来ると細い道が拡張されて車優先の道になってしまう。

【災害対策】

- ・ 大深度で事故があった時の危険性についてアクアラインのような対策で本当に大丈夫か。

【P I】

- ・ 外環道は、歴史的巨大土木工事を世界有数の人口過密地帯の都市で行う計画、それにしても手続的におそまつ。行政はP Iを理解していないので、時間をかけてゆっくり考えていく本来のP Iでやり直して欲しい。P Iをずさんにやりながら、都市緑地保全法に指定されているみつ池と野川の間にトンネルを掘るのはおかしい。
- ・ P I協議会については、最初から結論を出さないという前提で議論するのはおかしい。形だけ取り入れたアリバイ作りではないのか。
- ・ 外環道の全体計画の一部分だけを取り上げたP Iというのは存在しないのではないのか。
- ・ 基本の計画の在り方について、骨子が無いと議論できない。都市の在り方の見直しの議論をP I協議会に期待する。
- ・ 今後のP Iの在り方、議論の進め方はどうなるのか。
- ・ 地域から出ているP I協議員が住民に話す機会をつくるよう、区は考えて欲しい。
- ・ 一般的な話ではなく、世田谷地域のP Iを何回もやってもらいたい。
- ・ 地域の意見・実感を取り入れる地域P Iを今後何回もしっかりやる。これこそが本当の新しいP Iと考える。
- ・ 行政もこの地域の勉強をして、もう何回か話し合いを持って欲しい。本当に取り入れてもらえる場を是非設けて欲しい。外環が何でこの場所なのか住民が理解出来るように説明して欲しい。
- ・ 地域の不安をしっかりと汲み上げる事こそが地域P I。二層のP Iが必要。世田谷区として地域P Iをやり住民意見を汲み上げないと、将来禍根を残す。

【意見の把握】

- ・ アンケートは直接的に利害関係の強い人への的確に実施して欲しい。
- ・ 地域でアンケートをやると、賛否が国のアンケートと反対の結果になった。本当に地域の意見が組み入れられているのか不安がある。
- ・ アンケートのやり方について、疑問がある。アンケートを実施するときは、地元の意見を聞いて実施してほしい。
- ・ 情報をもっとオープンにして地元の意向をよく聞いてもらいたい。
- ・ 住民の意見をしっかりと聞くために、第三者による市民の意向把握を、是非、行うべきである。